バセドウ病 02

3つの治療の選び方

どれが優れているという順位はありません。体の状態と暮らし方に合わせて一緒に選びます。

Q 3つは何が違うのですか

目的はどれも同じで、**甲状腺ホルモンを作りすぎない状態にすること**です。ただし体への働き方が違います。



薬は甲状腺を残したまま抑えます。あとの2つは甲状腺そのものを減らすので、結果も変わってきます。

Q 長所と短所を教えてください

治療	長所	気をつける点
飲み薬	外来で始められる。甲状腺を残せる	効果が出るまで時間がかかる。やめたあと再発することがある
アイソトープ	カプセルを1回飲むだけ。外来で受けられる	受けられる施設が限られる。効果が出るまで数か月。妊娠・授乳中は受けられず、治療後も半年はあける
手術	最も確実で早い。大きな甲状腺にも向く	入院と麻酔が必要。首に傷が残る

アイソトープ治療と手術のあとは、甲状腺ホルモンの薬を飲むことが多くなります。 甲状腺を減らす治療なので、働きが弱くなるためです。

一度必要になれば、その後はほぼ確実に生涯の内服となります。 足りない分を補うだけの薬で、1日1回。量が決まれば負担は大きくありませんが、**治療を選ぶ前に必ず知っておいていただきたい点**です。

アイソトープ治療のあとは、**2〜3日のあいだ**、小さなお子さんや妊娠中の方と長時間ふれあうことを控えていただきます。会えないわけではありません。

Q 何をふまえて選びますか

- **甲状腺の大きさ** — 大きいと薬が効きにくく、手術が向くことがあります
- **妊娠の希望と時期** — 時期によって選べる治療が変わります
- **目の症状** — 眼症がある場合は治療の選び方に影響します
- **年齢や持病、通院のしやすさ**

Q 途中で変えられますか

変えられます。 まず飲み薬から始めて、効果が足りないときや副作用が出たときに、アイソトープ治療や手術へ切り替えるのはよくある流れです。

最初の選択がすべてを決めるわけではありません。 迷っているときは、そのままお伝えください。

出典：日本甲状腺学会 バセドウ病治療ガイドライン2019（南江堂）／同 バセドウ病アイソトープ治療Q&A

診療目的での複製は自由に行えます。